

櫛引地区の概観

鶴岡市の南部を通る国道112号線に沿う稲作や果樹栽培が盛んな地域である。最近では農業の合理化・現代化を推進するとともに工場の誘致もはかり、農工一体化をめざして積極的に取り組んでいる地区でもある。

市町村合併前の櫛引町は、昭和41年に町政施行し、目まぐるしく変転する社会的、経済的要請に応えるため、近代行政の推進と住民福祉の向上を目指してきた。平成8年に県内市町村の魁として開始されたケーブルテレビの本放送は、情報化時代への対

応を図るとともに、生涯学習を具現する機能の一翼を担ってきたという点でその代表的な例である。

櫛引地区黒川は、農民芸能「黒川能」で全国的に有名な地域である。「黒川能」は、

室町時代から領主の保護を受け、500年の間その形を保ってきた。昭和51年5月には国の重要無形民俗文化財に指定され、今なおその伝統を受け継いでいる。

また、丸岡地区一帯は天領として徳川将軍家の直轄地となり、丸岡城は加藤清正公嫡男加藤忠広配流の地として名高い。明治時代より東田川南部地区の中心としての役割を果たしてきた地域である。

また第47代横綱・柏戸（故富樫 剛、鏡山親方、平成8年12月ご逝去）の出身地としても全国的に有名である。